

日本語を母語としない子どもとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信
(JSL= Japanese as a second language)

令和4年 第9号
発行者 会長 瀬村 進
日本語指導教育研究会 事務局

○第9回研修会（オンライン開催）

全体研修 ①特別支援についての研修

今回の研修は、「日本語指導における特別支援教育」についての研修でした。教育的配慮を要する児童生徒を正しく理解し、その特性に合わせた支援を行っていきけるようにするための貴重な研鑽の機会を得ることができました。

- (1)あいさつ
- (2)講師紹介
- (3)グループワーク [児童生徒の発達に関する指導の難しさについて]
- (4)講義「発達と言語」 講師：スクールカウンセラー 輿水 千草様
- (5)質疑

- ・文字を読むことに困難を抱えた子どもの文字の見え方の例などを実際に挙げていただいたことで子どもの立場を知ることができよかった。
- ・講師の先生のお話を聞いて、子どもにとって適切な支援を考えるときは、いろいろな立場の人の目で総合的に情報を見極めながら判断をしていくことが大切だと分かった。
- ・日本語の問題か発達の問題かを見極めることはとても難しい。
- ・吉谷先生のお話にもありましたが、生徒がどのようなルートで学んできたのか教育機関の履歴からだけでなく、学びの状況も聞き取ることも大切だと分かった。

全体研修 ②配置校・拠点校別研修 「自尊感情を高める取り組み」について

- (1)全体説明
- (2)グループ別交流（小・中それぞれ拠点校と配置校でブレイクアウトルームに分かれて行う）
- (3)グループごとに発表
- (4)助言やアドバイスなど

JSL 生徒が自尊感情を養い自分自身を大切に思えるように私たちは日頃から学習・学校生活の中で様々なアプローチを試みていると思います。今回は「母語・母文化の保持に対する支援」という視点から、配置校と拠点校に分かれて交流を行いました。発表後、伊藤先生や吉谷先生、松永先生、山下先生など顧問の先生方からたくさんの助言をいただきました。レオ＝レオニ「コーネリアス」を読んでみようと思いました。

- ・先生方のいろいろな取り組みの工夫を知ることが出来てよかった。同じ母国の子ども同士の手紙やビデオレターの取り組みはとてもよかった。
- ・日本語を教えるということに目が向きすぎていて児童の母語や母文化の保持について取り組みが不十分だったと感じました。
- ・母語・母文化については保護者や地域と連携すると同時に、児童生徒だけではなく学校全体として共生社会について考えること、市民性の意識が高まることも必要で、私たちの「つなぐ力」が必要だとも思った。
- ・吉谷先生の助言で「日本語指導教員として日本語の専門家ではなく、学校の教員として子どもを育てていくときに何が必要かを考えるべきでは」と言うお話に納得した。
- ・1つの言語をきちんと習得することは、すべてのJS児童生徒にとって大きな課題である。